

第 26 回 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時:平成 31 年 1 月 10 日(木)14:00~15:20

場 所:鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者:33 名(別紙『組織構成及び出席一覧表』参照)

組織委員 26 名(全 37 名中 出席 17 名, 代理 9 名, 欠席 11 名)

事務局(鈴鹿市)7 名

内 容:以下のとおり(要旨)

1 あいさつ

【鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会会長・鈴鹿市長 末松則子】

- ・今年度のF1日本グランプリは、鈴鹿での開催が30回目の記念大会として、本田技研工業様がタイトルスポンサーを務め、「Honda 日本グランプリ」として開催された、特別な大会となった。
- ・委員の皆様方のご協力とご尽力により、昨年よりも観戦者が大幅に増加したことを喜ばしく思うとともに、大きなトラブルなく無事に大会を終えることができたことに心から感謝を申し上げる。
- ・鈴鹿で開催されるF1日本グランプリは、チャレンジングでテクニカルな世界有数の国際レーシングコースを舞台に繰り広げられるレースとして、世界中で「SUZUKA」の名が知れ渡っていると同時に、日本グランプリならではのF1ドライバーやチームと連動した取組の展開により、レース以外にも魅力あるものとなっている。
- ・F1日本グランプリが、2019年以降の3年間、鈴鹿で継続開催することが決定したことは大変名誉である。
- ・国際的なイベントであるF1日本グランプリを鈴鹿だけでなく、三重県、そして国の貴重な観光資源として、国内外からお越しになる観戦客の皆様に対して、より一層のおもてなしでお迎えしたいと考えているので、引き続きご協力をお願い申し上げます。
- ・来年度のF1日本グランプリに向け、本日の会議が有意義な意見交換の場となるよう、委員の皆様にご協力をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 通訳ボランティアの表彰について

【鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・資料1「通訳ボランティア功労者の表彰について」に基づき説明
- ・本案件については、昨年平成30年8月7日開催の第27回の協議会にて、伊勢鉄道様よりご提案いただいた案件である。
- ・これを受けて、12月19日に開催した第30回鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協

議会おもてなし部会において、ご協議いただいた内容である。

- ・通訳ボランティアとは、F1日本グランプリ開催期間中に鈴鹿を訪れる外国人観戦者への道案内等のおもてなしに取り組んでいただく方を、鈴鹿商工会議所様により募集いただき、F1開催期間中、主要駅等で通訳ボランティアとして、活動いただくものである。
- ・この取り組みは2004年から取り組んでいただいております、これまでに13回実施している。
- ・長年にわたり、F1開催時に、通訳ボランティアとして活動いただいた方を、鈴鹿でのF1開催30回目の節目の年に表彰することを提案する。
- ・今後の表彰の時期については、鈴鹿でのF1開催の35回、40回等の節目の時期での表彰を想定している。
- ・表彰の対象としては、F1日本グランプリ開催期間中に、通訳ボランティアとして活動いただいた方で、F1日本グランプリの価値の向上、または、鈴鹿市へ多大な貢献をした方とする。
- ・この度の功労者表彰対象者としては、12月19日に開催したおもてなし部会で選定した候補者4名を、資料に記載させていただいております、これまで11回以上、ボランティアとして活動いただいた方で、協議会委員の皆様の承認をもってこの4名を表彰することとしたい。
- ・表彰の方法、時期については、本年の8月に開催予定の鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会にて、会長から功労者に感謝状を授与することとしたい。
- ・事務局からの提案をご審議願いたい。

(※拍手多数により、承認)

3 報告事項

(1)2018年F1日本グランプリ大会結果報告について

【株式会社モビリティランド取締役 鈴鹿サーキット総支配人・塩津氏】

- ・資料2『F1グランプリレース開催レポート』に基づき説明
- ・2018年のF1日本グランプリにおいては、多くのお客様にお越しいただき無事に開催することができた。感謝を申し上げます。
- ・今年は、鈴鹿での開催30回目の記念大会として開催し、ホンダがタイトルスポンサーとなり実施した日本グランプリであった。
- ・今年のF1において、ホンダはトロロツソにパワーユニットを供給し、第2戦において、ピエール・ガスリー選手が、あと一歩で、表彰台という活躍をみせた。
- ・鈴鹿ならではの取組として、ファンとドライバーが近いF1日本グランプリとなるよう、各種施策を実施した。
- ・30回目の記念大会として開催するにあたり、過去の鈴鹿でのF1において、話題とな

- ったマシンやドライバーによる、トークショーやデモレースを実施した。
- ・新規施策として、インフィールドパスを発行し、レーシングコース内側のパドックに入れるようにすることで、パドック内にドライバーがやって来る姿を見学できる取組を実施した。
 - ・30回大会の記念として、F1チームをデザインした、プラスチックチケットを作成、提供した。
 - ・例年、グリッドガールが選手を誘導していたが、今年は抽選で選ばれた子どもたちが、スタートグリッドにて対応した。
 - ・国家斉唱については、伊勢少年少女合唱団に行っていた。
 - ・F1ウィークの木曜日にピットウォークを実施し、今年は、津市から初めての参加があり、合計7校となった。
 - ・来場人数、来場構成については、例年どおりであった。
 - ・来場者の年齢については、16歳から22歳の若い年齢の方の来場が増加した。
 - ・今回のF1日本グランプリは、F1観戦が初めてという方に、たくさんお越しいただいたことから、今後のお客様の増加に繋がると考えている。
 - ・ここ数年、海外からの来場者の増加に力を入れており、今回は、9500名の方にお越しいただいた。
 - ・アジアからのお客様が増加しており、今後も増加していくと考えている。
 - ・中国、台湾の来場者数については、それぞれの祝日と重なったことから、大きく来場者数が増加している。
 - ・海外のお客様の傾向として、30代の来場が多く、アジアからの来場者は友人との来場、欧州からの来場者は、夫婦での来場が多い。
 - ・ヨーロッパからのお客様は、日本への観光のついでに、F1を観戦する傾向にある。
 - ・アジアからのお客様は、F1というイベントを目的にお越しになり、鈴鹿に長く滞在し、F1観戦をすることから、地域にとってメリットが大きい。
 - ・F1運営組織のFOMが実施したアンケート結果によると、F1世界選手権シリーズの中でベストサーキットの1位がベルギーのスパ、2位が鈴鹿サーキットであり、世界から高い評価をいただいている。
 - ・同アンケートにおいて、近い将来行きたいサーキットについて、鈴鹿サーキットが中間の位置であったことから、より多くのお客様にきていただくために、魅力の発信や素晴らしいサーキットであったと思っただけのような取組を実施していく。
 - ・海外来場者のお困りごとについては、交通アクセスの難しさがコメントとして多く、アジアからのお客様については、言葉に関する部分で困りごとが出ている。
 - ・海外からのお客様の受け入れについては、他の国よりも色々な面で課題がある。
 - ・2018年は、F1ウィークの5日間で、18万人のお客様にお越しいただき、久しぶりに観戦客が増加する結果となった。
 - ・市民応援席の動員が減少した原因として、同じ場所での実施が続いていることが考

えられるため、新たな場所での展開等が必要である。

- ・鈴鹿でのF1日本グランプリについては、2019年から、引き続き3年間開催することが決定した。
- ・2019年は、世界21戦の中の第17戦として、10月10日から14日にかけて鈴鹿サーキットにて開催されることが決定した。
- ・今年の話題として、ホンダが2チーム体制となり、レッドブルとトロロツソにパワーユニットを供給し、それぞれの活躍が期待される。
- ・トロロツソのドライバーは、タイ国籍であることから、タイからのお客様の増加を期待している。
- ・F1を中心に8耐、10Hなど、数々のモータースポーツを展開して参ることから、皆様の引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

4 2018年鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の取り組み結果について

(1)環境整備部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・環境整備部会の取組について、資料3『環境整備部会資料』に基づき、各事業者より報告を行う。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・岡野氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P1～P4に基づき説明
- ・バス専用道、交通規制について、中勢バイパスの規制でシャトルバスがスムーズに運行することができた。帰路についてもサーキット周辺交差点の混雑の緩和もできた。御礼申し上げます。
- ・駐車場については、民間・直営合わせて13,300台準備した。今年は駐車台数も増え、3日間合計で30,000台を超えた。前年と比べ6,200台以上の増加である。
- ・市内近郊の民営駐車場について、稲生地区・道伯地区・御園地区へWeb告知、コンビニ各店舗に鈴鹿マガジン、自治会案内所へ案内した。
- ・Web情報の拡大ということで、各公共交通機関様の協力のもと、AcProによる交通情報の提供を行った。またサーキットホームページのリンクからアクプロ利用者の拡大および推奨ルートの早期告知を実施した。
- ・公共交通機関の利用拡大について、サーキットホームページの内容を変更。「乗り継ぎクイックルート」を表示して、より分かり易い情報を提供した。
- ・帰路情報の拡充については、ホームページにて事前に推奨ルートを情報発信し、昨年の所要時間も掲載した。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社桑名保全・サービスセンター・志岐氏】

- ・資料 3『環境整備部会資料』P5～P6 に基づき説明
- ・鈴鹿サーキットの玄関口となる東名阪鈴鹿ICでの渋滞対策ということで、10月5日(金)～10月7日(日)の三日間の期間、東名阪を利用の方は四日市東ICで、伊勢湾岸を利用の方にはみえ川越IC、新名神を利用の方は亀山ICで、標識車を使って出口案内・迂回推奨をした。
- ・結果としては、10月5日(金)朝方の7時～10時頃、東名阪鈴鹿ICの料金所から本線上まで渋滞が延びた。通勤時間と重なり渋滞が発生する時間帯であり、鈴鹿警察署様にも鈴鹿IC出口の信号操作等でご対応いただいた。
- ・F1前週との交通量の比較結果としては、鈴鹿ICが前の週と比べて2割り増し、四日市東ICは前週程度、亀山ICは1割増し、みえ川越IC 5割ほど流出車両が増加した。一定程度の迂回推奨の効果が出ていると見えるので、引き続き、鈴鹿ICでの混雑緩和に努めていく。

【近畿日本鉄道・藤田氏】

- ・資料 3『環境整備部会資料』P7～P8 に基づき説明
- ・白子駅の定期外降車人員について、3日間の合計で34,329人となり、過去6年間で最も多い結果となった。前年より約6,500人増加している。
- ・決勝当日、津市で人身事故があり、遅延が最大60分発生したが、3日間を通して特に駅が混雑したということはない。
- ・中勢バイパスを規制しシャトルバスをスムーズに運行いただいたおかげで、駅でお客様が滞留することなくスムーズに誘導することができた。
- ・特急券の発行状況について、インターネット発行が増加し、浸透している。
- ・エリア別の特急乗車割合については、半分以上の方が近鉄名古屋駅から乗車し、難波、上本町、鶴橋といった、大阪からも約3割の方に乗車いただいた。
- ・臨時列車について、本数は昨年より少ないが、バスが一定間隔で到着したこともあり、スムーズにお客様を運ぶことが出来た。
- ・旅客整理について、インターネットで特急券が買えるサービスのチラシを配布し、窓口の混雑を緩和した。
- ・ボランティアおよび駅コンシェルジュの配置について。普段は名古屋駅にいる駅コンシェルジュおよび商工会議所より派遣いただいたボランティアを、インバウンド対策として配置した。

【伊勢鉄道・富澤氏】

- ・資料 3『環境整備部会資料』P9～P11 に基づき説明
- ・今年の概況について、資料にはないが、決勝日19時過ぎにJR四日市駅構内で進路構成ができない不具合があり、最後の方の列車で運休や大幅な遅延がでてご迷惑をお掛けしたが、全体としては大きな混乱や事故もなく、F1輸送を実施できた。

- ・お客様の利用数は、3日間で、26,783名ということで、2年前の水準に戻っている。対前年比では116.2%。傾向としては、名古屋からの利用が伸びている。
- ・鈴鹿サーキット稲生駅においては、地元の方に大変ご協力をいただいている。
- ・仮設トイレ・照明については、当協議会の協力のもと例年どおり設置した。
- ・鈴鹿抹茶ブランド化研究会により、鈴鹿抹茶の振る舞いが行われた。
- ・通訳ボランティアの方々については、通訳だけではなく、鉄道会社のほうにも外国人の視点で提案をしてくれたり、駅の放送を英語でしてくれるなど、活躍していただいております、感謝申し上げます。

【三重交通・内山氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P12に基づき説明
- ・3日間の輸送実績としては、延べ45,732人であり、前年比28.7%増加した。
- ・今後の課題としては、中勢バイパスの開通後の運用について、中勢バイパスの一部規制しシャトルバス専用レーンとしていることから、混雑が緩和され、円滑な輸送が実施できた。
- ・利用者からの評価もいただいております、公共交通利用の増加にもつながっている。
- ・シャトルバスの運行が滞ることがあれば、次年度以降の公共交通機関離れにつながることから、次年度以降もぜひシャトルバス専用レーンを確保いただきたい。
- ・名古屋直通バス輸送実績についても、前年に比べ増加傾向にある。
- ・公共交通利用の面で渋滞緩和や円滑な来場者輸送につなげていきたいので、今後ともご協力お願い申し上げます。

【鈴鹿市中央消防署・北川氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P13～P15に基づき説明
- ・10月6日(土)、7日(日)にサーキット内の各救護所において、それぞれ12名、58名の救護者があった。前年と比較し、概ね昨年と同様の救護人数であった。
- ・もてぎの救急車による傷病者の搬送は、10月6日(土)に2件、7日(日)は0件であった。
- ・詳細な救護実績や種別はグラフに記載のとおりである。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・資料3『環境整備部会資料』P16～P31に基づき説明
- ・鈴鹿市の取組報告の前に、オブザーバーとして当協議会に参画いただいている観光庁様より、インバウンド対応について頂戴した意見を報告させていただく。
- ・近鉄白子駅からのシャトルバスについて、多言語対応を検討してはどうか、という内容で、当協議会としても、運行者である三重交通様と協議し、取り組んで参る。
- ・2018年の鈴鹿F1日本グランプリの開催概要は、来場者数は三日間で165,000人

と前年より、28,000 人増加となった。

- ・3 日間の来場者の機関分担率は、公共交通利用者が前年と同じ 34%、自動車利用が前年より 2%増加の 45%となった。
- ・決勝日だけで見ると、81,000 人の来場があり、そのうち 25,000 人が公共交通機関を利用している。
- ・「交通円滑化の目標」については、2018 年も 8 項目の課題に対し、目標を 3 つ掲げた。
- ・全体目標として、鈴鹿市内の渋滞解消時間を 4 時間程度に設定した。
- ・個別目標として、公共交通機関の利用割合を 31%以上に設定した。また、自動車交通については、交通集中の分散のため、鈴鹿ICの利用割合を 20%以下に抑えるとともに、利用時間の均一化を図ることを目標とした。
- ・目標達成に向けた、交通円滑化の施策については、表に示してあるとおりである。
- ・新たな取組については、「⑩協議会HPのリニューアル」として、図のとおり、HPのトップページと交通アクセスページを視覚的に分かりやすいレイアウトに変更した。具体的には、画像や交通情報を 5 秒間隔で自動で切り替わるようにしたり、協議会日誌をBLOG&NEWSという形で、表示方法を変更した。
- ・交通円滑化の目標の達成度について、「鈴鹿周辺の渋滞解消時間」は、決勝レース終了後 4 時間程度で渋滞が解消し、目標の「4 時間以内」を達成した。「公共交通機関の分担割合」についても 34%とほぼ横ばいではあるが、達成することができた。「鈴鹿ICへの交通集中分散」については、帰宅時の利用割合が 32%と昨年よりやや改善した。
- ・21P~22P 上段は各目標数値の詳細資料となっているので、ご確認いただきたい。
- ・白子駅・サーキット間のシャトルバスについては、2017 年と比較し、近鉄白子駅の利用者、シャトルバスの利用者ともに増加し、利用率も 73%と増加した。
- ・シャトルバスの所要時間は、目立った遅れはなかったが、来場者数の増加も影響し、行き・帰り平均で 19 分と、2017 年の 14 分より長くなった。
- ・シャトルバス利用者の満足度は、「渋滞がなく予定通りの時間にサーキットに到着できる」と、9割近くの方に満足いただいた。
- ・一部では「来場者が多くバスに乗るまでに時間がかかった」という声もあり、白子駅での待ち時間が長かった時間帯が発生したことが要因として考えられる。
- ・名古屋行き高速バスの利用者については、大幅に増加しており、利用者のうち、帰宅時当日利用が全体の 9 割を占め、鉄道などからバスに転換している。
- ・近鉄四日市駅からのパーク&レールライドについては、「JAパーキング」と「くすのきパーキング」で、合計するとF1開催前週の1~2割の増加であった。
- ・自家用車での来場者へ対しては、国道の情報板において交通情報や、ウェブページにおいて方面別所要時間を発信し、多数の方にご利用いただいた。
- ・アクプロスマートフォンを活用した情報提供については、サポーター応募数が 474

- 人、決勝レース終了後、アプリを通じて 250 人に情報提供いただいた。
- ・アンケート調査の結果によると、アクプロの認知率が約6割、全体の 18%がアクプロを利用し、帰宅時に参考になった情報として評価している。
 - ・協議会が実施した利用者アンケートの結果は、各施策の利用者満足度について、公共交通機関、自動車交通、情報発信ともに「良好」との結果であった。
 - ・自動車利用者は来場時、帰宅時ともに「前回と同様にスムーズに移動できた」の回答が前年より増加した。
 - ・「渋滞や混雑が増えた」という回答者が、全体的に増加しており、観戦者数が増加していることが一因と考えられる。
 - ・実施施策の評価については、全体的に「良い」「大変良い」の肯定的回答がおおむね 8 割以上となった。
 - ・アンケートの自由意見については、総数 102 件中、半分は交通に関する意見となっているが、その他にもご意見をいただいているので、ご参照いただきたい。
 - ・今年度は、来場者数が大幅に増えたため、昨年度より渋滞が増えた部分もあったが、これまで積み重ねてきた仕組みや経験でカバーし、目立った混乱もなく無事交通円滑化に取り組めた。
 - ・利用者満足度の面では一部低下している点もあったことから、今後、さらに増加した場合のことを想定しながら、より効果的な取組を継続していく必要がある。
 - ・環境整備部会として、交通状況をめぐる大きな動きが、本年度、2件ある。
 - ・1 点目として、本年 2 月 17 日に予定している中勢バイパス7工区の開通である。
 - ・これまで以上に非観戦者の交通が増加し、サーキット周辺における交通渋滞が発生する可能性があり、地域住民への影響が懸念される。
 - ・公共交通の利便性を維持するため、昨年同様、中勢バイパスを活用し、好評を得ているシャトルバスの運行を継続していく方向で考えている。
 - ・迂回案内や事前周知といった対策を早期に実施し、国土交通省様や鈴鹿警察署様といった関係部署のご指導のもと、対応して参りたいと考えている。
 - ・2 点目として、本年 3 月に予定している、新名神高速道路三重区間の開通である。本市においては、スマートICが併設された鈴鹿PAが新たに開設され、新たな鈴鹿の玄関口となる。
 - ・観戦者の新たな来場ルートとなるとともに、並行する東名阪高速道路の渋滞緩和も期待される。
 - ・2019 年は、中勢バイパス第7工区・新名神三重区間開通後のF1グランプリ開催となることから、これまでとは交通状況が大きく変わってくることが予想される。
 - ・関係機関様と早めに協議をし、観戦者や地元への周知など、前もって取り組み、皆様のご理解、ご協力をいただきながら、交通円滑化に取り組んで参りたいと考えている。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・岩下氏】

- ・『環境整備部会資料』P24 上段の利用者の声について、「バスに乗るまで時間がかかった」とあり、事務局からの説明では、白子駅での待ち時間が長くなったとあったが、帰りのサーキットの駐車場での待ち時間が長かった面もある。そちらの解消改善も今後考えていくべきかと思う。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・シャトルバス運行者である三重交通様や鈴鹿警察様とも協議の上、お客様により満足いただけるよう取り組んで参る。

(2)おもてなし部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・【資料4】『2018 年おもてなし事業』に基づき報告
- ・今年度のF1日本グランプリは、10月4日(木)から7日(日)までを重点期間と位置づけ、各種取組を実施した。
- ・おもてなし事業の各種取組の詳細について、はじめに、各団体様より取組のご報告をお願い申し上げます。

【鈴鹿商工会議所・酒井氏】

- ・【資料4】『2018 年おもてなし事業』【インフォメーション(通訳ボランティア)ブース】P6に基づき説明
- ・10月5日から7日まで3日間、近鉄白子駅、鈴鹿サーキット稲生駅、鈴鹿サーキット内青年部ブースにボランティアを配置した。
- ・今年度は、のべ48名のボランティアに活躍いただいた。

【鈴鹿商工会議所青年部・矢田氏】

- ・【資料4】『2018 年おもてなし事業』【おしごと体験ワールド】、【鈴鹿商工会議所青年部 F1応援イベント】P7に基づき説明
- ・鈴鹿商工会議所青年部は、設立40周年を迎え、今年度も鈴鹿の地域資源とモータースポーツのPR等に取り組んだ。
- ・モータースポーツ振興の取組としては、鈴鹿8耐でのバイクパレード、10H公道パレードへの参画、F1に関する事業である。
- ・F1に関する事業については、2つのイベントを開催した。
- ・9月17日に文化会館周辺にて、市内小学生を対象とした、夢のおしごと体験を実施した。
- ・開催2回目となり、モータースポーツに関した事業に重点的に取り組んだ。
- ・レーシングカーのピットワーク体験やタイヤ交換、レーシングドライバーによるトーク

ショー等を実施した。

- ・動員実績としては、約 3,000 名であった。
- ・応援イベントは、鈴鹿にお越しになったお客様に、F1をPRした。
- ・白子駅西口にて、F1応援イベントのチラシを配布し周知、案内した。
- ・園内イベントでは、メッセージオトドケ隊、くれないのチェッカーフラッグ、鈴鹿ブランドの展示、ボディペイント、フォトブースの設置等を行った。
- ・鈴鹿でのF1、30回記念大会に合わせて、新たに、インスタ映えスポットとなる特大フォトブースを設置した。

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・【資料4】『2018 年おもてなし事業』
【オリジナル絵馬で優勝祈願】、【F1日本GP観戦会】P8 に基づき説明
- ・本会は、モータースポーツが鈴鹿市の文化財となるように、理解を広めるため、地道に取り組んでいる。
- ・F1開催に伴い、2点おもてなし事業を展開した。
- ・白子近辺にあり、モータースポーツを連想させる勝速日神社とコラボレーションし、オリジナル絵馬を作成し、勝速日神社、観光協会、鈴鹿サーキット内ブースにて、お土産として販売した。
- ・昨年より、販売数が増加した。
- ・F1観戦会については、地元、鈴鹿の名物に触れていただき、鈴鹿に滞在し、鈴鹿を知ってもらおうということから取り組んでいる。
- ・実績としては、東京、神奈川、京都、滋賀、兵庫、岡山から12名に参加いただいた。
- ・要望事項として、外国人観戦客の来訪に備えて、F1協議会の外国語ページの充実をお願いしたい。
- ・具体的には、外国人観戦客が一目で分かる、動画を用いたアクセス方法の紹介等を展開いただき、友の会の取組も盛り込んでいただけるとありがたい。

【地域資源活用課 小野】

- ・今年度も、F1協議会ホームページの改修を行った。頂戴したご意見については、今後の課題として受け止め、検討して参る。

【鈴鹿市観光協会・舘氏】

- ・【資料4】『2018 年おもてなし事業』【手荷物預かり所】P9 に基づき説明
- ・10 月 5 日から 7 日までの 3 日間、通常の観光協会の営業時間よりも延長して手荷物預かりを実施している。
- ・観戦客の増加を受け、前年よりも1割多い、356 個の手荷物を預かった。
- ・預かる際に、手書きにて申し込み用紙に記入いただいているが、今年度より、時間

短縮のため、事前にインターネットによる予約の受付を行った。

- ・インターネット予約の取組を企画、実施した時期が遅かったため、全体の1割の利用という結果であった。
- ・次年度は、事前周知を強化し、スムーズに受付できるよう、おもてなしの強化に取り組む。

【ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋・石井氏】

- ・【資料4】『2018年おもてなし事業』【三重県フェア】P9に基づき説明
- ・F1開催に合わせて、9月から10月末まで、三重県フェアを開催した。
- ・11回目の実施となり、非常に好評いただいている。
- ・F1協議会参画市町、5市1町の食材を使用した極上のレシピを提供した。
- ・開催機運の盛り上げとして、F1の表彰台を飾るシャンパン、シャンパーニュカルボンを販売した。
- ・F1期間中のレッドブルの獲得ポイントに応じて食事代金を割引するイベント、レッドブル・トロツソホンダチャレンジを実施した。
- ・次年度も、レッドブルと連携し、F1に関するイベントを開催し、盛り上げていきたいと考えている。

【三重県雇用経済部・小見山氏】

- ・【資料4】『2018年おもてなし事業』【三重県の取組】P10からP12に基づき説明
- ・観光連盟と連携し、県内宿泊の促進に取り組んだ。
- ・松阪、津の宿泊施設に協力いただき、サポート宿泊施設として、448名に利用いただいた。
- ・施設ごとに、F1にちなんだ独自の取組を展開いただき、宿泊者から評価をいただいている。
- ・F1開催時には、鈴鹿サーキット内で、三重食旅パスポートの臨時発給を行い、県内周遊に取り組んだ。
- ・三重の魅力を伝え、周遊を楽しんでいただけるよう、引き続き取り組んでいく。
- ・MADE IN MIEと題し出店し、農林水産物や伝統工芸品等の物販を行った。
- ・18事業者に参加いただき、3日間で、695万円の売り上げがあった。
- ・海外へ三重県を発信するために、観光ブランドとキャッチフレーズを定めた。
- ・F1やクルーズ船等、外国人がお越しになるイベントでの活用やPR等、検討する。
- ・F1協議会の一員として、関係各所と連携しながら、盛り上げて参る。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・事務局よりその他のイベントの報告を抜粋して説明させていただく。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【イオンモール鈴鹿展示】P2に基づき説明

- ・9月29日(土)から10月8日(月・祝)までイオンモール鈴鹿とイオンシネマ鈴鹿にて、鈴鹿市出身フォトグラファー熱田護さんの写真展を開催した。
- ・イオンモールにて日本グランプリの写真を計20枚展示、イオンシネマにてアイルトン・セナの写真を計9点展示し、F1開催気運の盛り上げを図った。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【タウン雑誌の活用】P2に基づき説明

- ・10月1日から各所で、鈴鹿マガジンを配布し、交通アクセス、おもてなしイベント、グルメ等の情報を発信した。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【F1ジュニアピットウォーク】P3に基づき説明

- ・10月4日(木)に、F1ジュニアピットウォークを行った。
- ・今年度は、5市1町の小学校に呼びかけを行い、鈴鹿市内6校。津市から1校の合計698人に参加いただいた。
- ・事前学習として、F1チームとメールを通じた交流や出前授業によりF1の知識を深めた。
- ・ピット訪問では、チームスタッフとの交流や、ドライバーとの記念撮影など、参加した子ども達にとって思い出深いものとなったと考えている。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【F1映画祭】P3に基づき説明

- ・10月4日(木)から7日(日)まで、イオンシネマ鈴鹿にてF1映画祭を開催した。
- ・今年度は、昨年に引き続き「伝説のレーサーたち～命をかけた戦い～」を上映し、4日間で216人の動員があった。
- ・同様の内容での上映となったため、動員数としては減少であった。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【鈴鹿日本グランプリ地元前夜祭】P4に基づき説明

- ・10月5日(金)18時から20時30分まで、イオンモール鈴鹿専門店街1階センターコートにて、F1日本グランプリ地元前夜祭を開催した。
- ・観光PR、トークショーを中心とした内容で実施し、鈴鹿モータースポーツ友の会、中嶋一貴選手、佐藤琢磨選手によるトークショーを実施し、多数のお客様に会場いただいた。
- ・実績としては、イオンモール鈴鹿の通常金曜日の来場者(18,000人)と比較し、1.5倍となる来場者(26,867人)であった。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【三重県・5市1町観光・物産PRブース】P4に基づき説明

- ・10月5日(金)から7日(日)まで鈴鹿サーキット園地内にて協議会PRブースを出

展した。

- ・GPスクエアにブースを出店したことで、より多くの方に来場いただくことができた。
- ・三重県・5市1町の観光・物産PR、プルバックカーグランプリ、鈴鹿マガジンの配布等を行った。
- ・動員数としては、3日間で延べ5,000人の観戦客の方にお立ち寄りいただいたが、より長くブースに滞在いただけるよう、内容等検討していく。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【鈴鹿F1写真展 in 伊勢鉄道】P5に基づき説明

- ・伊勢鉄道様にご協力いただき、9月29日から10月8日まで、伊勢鉄道の駅構内および車内にて、F1写真展を開催した。
- ・昨年に引き続き、市主催の初心者のためのモータースポーツおもしろ体験講座を修了された山下さんに写真を提供いただいた。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【歴代優勝者タペストリーの掲出】

P5に基づき説明

- ・臨時シャトルバス停留所として多数の観戦者が利用される、白子駅西口の商店街のアーケードに、歴代優勝者のタペストリーを掲出し、F1開催機運の盛り上げを図った。
- ・実施にあたり、タペストリーの作成、設置等、白子駅前センター商店街振興組合様にご協力いただいた。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【その他のおもてなし事業】P6に基づき説明

- ・F1協議会ホームページを活用し、宿泊施設の情報を発信した。
- ・鈴鹿IC、白子駅等の玄関口に、F1観戦客の来場を歓迎するため、のぼり旗・横断幕を設置した。
- ・観戦者の利便性向上のため、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅に仮設照明と仮設トイレ、白子駅に仮設トイレを設置した。
- ・インバウンド施策として、台湾の高雄市にて、鈴鹿やF1日本グランプリのPRを実施予定であったが、東海地方に台風が接近する予報となったため、中止とした。
- ・F1協議会のトップページを改修し、閲覧者にとってわかりやすいレイアウトに改修した。

【資料4】『2018年おもてなし事業』【2019年F1日本グランプリに向けて】

P12に基づき説明

- ・2019年のF1日本グランプリにむけて、重点事業を3つ挙げさせていただく。
(1)F1ジュニアピットウォークについて
- ・参加校から好評をいただいている取組であるため、関係市町様の協力をいただ

きながら、周知を強化し、参加校の増加を図る。

- ・学校によっては、メールでの交流や応援グッズの作成等が教諭の負担になるという意見を頂戴したため、学校に合わせて取組内容を変更するなど、より参加しやすいF1ジュニアピットウォークを目指し取り組んでいく。

(2)ホームページによる情報発信

- ・観戦者の多くが閲覧するF1協議会ホームページについては、情報発信ツールとして重要であると考えており、更新頻度や掲載情報の内容などを検討し、閲覧者にお得だと思ってもらえるような情報の発信に努める。

(3)5市1町観光PRブースの有効活用

- ・F1開催期間に、鈴鹿サーキット園地内に出店する本ブースは、お客様とF1協議会のスタッフが直接対面し、接客できる場であることから、従来の観光PR、ミニゲームの実施だけでなく、ブースに長く滞在いただけるような展示内容や情報提供等を検討していく。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・おもてなしに関するアンケート調査結果についての説明は省略させていただく。
- ・おもてなし部会系統図については、全て実施完了しているので、詳細の説明は省略させていただく。

5 その他(質疑応答等)

【国土交通省中部運輸局三重運輸支局・後藤氏】

- ・F1グランプリはインバウンドの観点から非常に重要である。
- ・観光庁からの意見もあったと思うが、交通関係の多言語化は受入れ環境としては非常に重要なので、こういった点の課題の洗い出しや対応策の検討等、運輸局としても協力をできたらと考えている。

【鈴鹿F1協議会 会長 末松 則子】

- ・インバウンド施策について、ご意見を多数いただいたので、協議会の中で、取組を協議して参る。
- ・委員の皆様、各団体様のご意見を随時頂戴しながら、取組内容を精査して参るので、31回目のF1日本グランプリも成功裡に終わることができるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

以上

15:20 終了